

科 目 名
現代社会と法Ⅰ LawⅠ

2年 前期 2単位 選択

鈴木 義 孚

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(2), 3-(3), (4)
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 3	建築計画コース		
	a, b	建築構造コース		

【概 要】

法学は一面においては、法の技術性を認め形式論理を身につけることにあるので社会生活をいとなむ限り、法に対する正しい知識が必要となる。そこで、日常生活の中で起こるさまざまな法律問題を素材にして、現実の生活の中で法がどのような機能を果たしているかを理解することにより、現代社会を見る目が養われるように、また与えられた問題をどう考えるか（How to think）等について、判例をまじえながら講義をすすめていく。さらに新聞のスクラップブックをつくることで、情報収集の仕方など自主的な学習を行う際の基本的な情報リテラシーを得られるようにする。

【到達度目標】

- (1) 法的知識の習得。
- (2) 法的なものの考え方の養成。
- (3) 法の技術性、論理性の習得。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 法 の 概 念	法 の 概 念 規 定、法 と 道 徳 の 差 異、法 の 強 制 手 段、正 義
② 法 の 構 造	行 為 規 範、制 裁 規 範、裁 判 規 範
③ 法 の 妥 当 根 拠	自 然 法 説、契 約 説、法 段 階 説、契 約 説
④ 法 の 淵 源	成 文 法、不 文 法、
⑤ 法 の 効 力 (1)	法 の 段 階 構 造、法 令 不 適 及 の 原 則
⑥ 法 の 効 力 (2)	属 人 主 義 と 属 地 主 義、一 般 法 と 特 別 法
⑦ 法 の 体 系	公 法 と 私 法、社 会 法
⑧ 法 の 分 類	国 際 法 と 国 内 法、実 体 法 と 手 続 法、強 行 法 と 任 意 法
⑨ 法 の 構 造	行 為 規 範 と 制 裁 規 範、裁 判 規 範
⑩ 法 の 適 用 (1)	事 実 の 認 定
⑪ 法 の 適 用 (2)	法 による 事 実 の 推 定、法 による 事 実 の 擬 制
⑫ 法 の 解 釈 (1)	有 権 解 釈 (立 法 解 釈、司 法 解 釈、行 政 解 釈)
⑬ 法 の 解 釈 (2)	学 理 解 釈 (文 理 解 釈、論 理 解 釈)
⑭ 法 的 関 係	権 利 と 義 務、公 権 と 私 権、権 利 変 動
⑮ 総 括	前 期 講 義 の ま と め

【授業方法】

講義の後、問題を出して解答を書かせることがある。

【学習到達度の評価】

- 1) 定期試験。
- 2) 小テスト、レポートで理解度をチェックしながら講義を進める。

【評価方法】

定期試験 (80点)、小テスト (20点)

【教 材】

教科書：三好充、鈴木義孚 編著「ポイント法学」嵯峨野書院

【履修上の注意】

法学の領域では、絶対真理というものはないわけであるから、授業で教えられた知識をそのまま受け取りそれを記憶するのではなく、既成の事実をまず疑い自ら考えることが大学で学ぶ第一歩であることを念頭においてもらいたい。